
ループ&ループ

西くん

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ループ&ループ

【コード】

N9204P

【作者名】

西くん

【あらすじ】

二人の男が女性にこくりマス

阿呆・阿房（前書き）

この小説のジャンル、『恋愛』でいいのだろうか

阿呆・阿房

人間が異性の相手に恋をした場合において、その異性のあらゆる嗜好を自分の脳に叩き込み、そして『相手』との会話を成立させようとする輩が居る。

そして、私の目の前にいる男はその内の『音楽』というジャンルを、個人の情報処理能力を遥かに凌駕するほどに脳に取り入れたいた。

「あのな・・・お前がやってるそれ、ストーリーカーの域だから。」

私はi podを片手に持っている友に言った。

「ほつとけ」

「いらいらすんだよ」

「なんで」

「あらゆるところで間違ってるから」

「どこらへん」

「全てにおいて」

「はあ、とため息をつく友。

「あのなあ。恋に正解も不正解もないんだよ！」

とも曰く『いわく』「語尾に「！』を付けることによって名言のように聞こえる術」という意味不明極まりない魔法（と呼ぶのも恥ずかしい）を使ったらしいが、私にはそれを無視する権利があるということをこいつは知らなかったらしい。

残念だったな、バカ。

「神乃^{かみの}さんも可哀想にな・・・お前に惚れられるなんて」

神乃さんとは私が言った通りで、友が惚れている女性である。

容姿・性格どちらも抜群、しかし天然である。

「何が可哀想なんだよ」

「全てにおいて」

オマエナア、と友。

「それ言えばいいと思ってないか」

「簡潔に否定できるからな。便利極まりない」

「相手からしてみれば傷付くんだよ」

「傷付けてるんだ。付かなきゃ意味がないだろう」

「……………」

こちらを可笑しく睨む友。

写真とつてブログに上げたい気分だ。

さぞ訪問者数が増えるに違いない。

「まあ、いいさ」

以外にも、さつさと次の話題に入ろうとする友。

「驚くなよ。俺は今日神乃さんに告白するのだ」

「……………は？」

……………苦しくも純粹に驚いた。

どちらかというと、笑い話である。

「もう一度。お前、何を？」

「だから、告白だって。『好き』から『あたしも』まで行って

『ぶっちゅー』みたいな」

「いや、だから！」

間違ってたんだって。

全てじゃなかったけど。

こいつだけだったけど。

「お前の場合、『好き』からの進展は無いと思え」

「なんと！」

「あたりまえだ」

「いや、神乃さんの天然ぶりならラブホテルぐらい容易だろう」

「……………」

『ぐらい』ってなんだよ。

こいつ、一回死んだ方がいいかもしれない。

いっそ私が殺してやるうか。

死刑になっても私一人の犠牲で世界が平和になるなら構わない。

「何やってんのお前？野球でもすんの？」

バットを持った私を見て、不思議そうに頷く友。

「ちよつと世界を救いに」

一回言つて見たかった言葉ではあるが。

告白

「おい……来たぜ……神乃さんだ」

隣で興奮する友を撲殺したい気分を抑え、その場に留まる。

ここは大学構内の長廊下である。

不動明王の如く彼女を待ち続けたせいかな、歩く術を忘れそうになった。

「お前、本気か？神乃さんはそう一筋縄ではいかんぞ」
多分お前以外でも。

「今行かなくて何時行く！」
いきなり声を荒げる友。

この声が満遍なく廊下に響いたため、歩く腐り大学生にも聞こえた
だろう。

勿論、神乃さんにも。

「一生行くな」

それを華麗に無視し、

「おい、どうする。あと五歩だ」

「滅茶苦茶近いな！」

時速何キロで歩いてんだ、神乃さん。

つかそもそも私の居る意味はあるのだろうか。

「一人で居たくないから」

「てめえ……」

今日は久しぶりに休日を楽しもうかと思っただけだが、
台無しだ。

「行って来る！」

私の殺気を感じてか、さつさと神乃さんの元へと走る友。

他人事ではあるが、やはり告白の場面を目にするとやはり緊張して
しまう。

他愛の無い話声が聞こえた後、友が告白の準備を整え、

「神乃さん。ぼくと天の国へ行きませう。」

ループ & a m p ; ループ

- 「知らなかった。まさかお前が仏陀様だったなんて」
- 「……俺はキリストだ」
- 「そっちもすげえな。まさか友達が世界の始まりだったとは」
- 「なんでそんなに嬉しそうなんだよ」
- 「別に」
- 「…………俺はどこでどう間違っただろうか」
- 「決まってるじゃないか」
- 「……………」
- 「全てにおいて」
- 「……………」
- 「なんだその顔は」
- 「俺は彼女のことを諦めん」
- 「百回行っても無理だな」
- 「ループじゃないか」
- 「ループだよ」
- 「ループ & a m p ; ループじゃないか」
- 「意味が分からん」
- 「俺も」
- 「なんじゃそら」
- 「彼女なら分かってくれるかと思ったんだが」
- 「あれはさすがに」
- 「もう一回あれで行ってこよう」
- 「…………ループじゃないか」
- 「ループだよ」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9204p/>

ループ&ループ

2011年1月8日19時58分発行